

2016年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	緑川 晶		
NAME	MIDORIKAWA, AKIRA		

1. 研究課題

（和文）高齢期の発達障害に関する調査研究

（英文）Developmental disorders in elderly

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

【背景と目的】発達障害は自閉症（ASD）や注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などを含む概念であり、その背景として脳の器質的な問題が想定されている。これまで主として幼少期を対象として調査研究がなされてきたが、特徴の多くは成人期以降も持続すると考えられることから、老年期にも発達障害の特徴は持続することが予想される。しかしこれまでのところ老年期の発達障害についての言及は皆無であった。このことに加えて老年期は認知症の発症が問題となるが、認知症と発達障害との関連も明らかではない。他方、認知症の中には特定の認知機能が特異的に低下する症例の存在が知られているが、その生育歴にまで言及されることは稀であった。このような状況を背景として、本研究では発達障害の視点から高齢者、特に認知症高齢者に焦点を当て、認知症高齢者が示す症状から発達障害で言及される特徴が該当するか否か検討することを目的とした。【方法】各種認知症患者の家族に対して質問紙を実施し、病前の行動特徴や病後の行動変化、および認知症のタイプに違いがあるか否か検討した。【成果】自閉症などでは定型発達の人々に比較して感覚面の過敏さが目立つ感覚過敏が生じていることが知られているが、認知症患者においても過敏さが増すことが明らかとなった。ただ、認知症のタイプごとの差異については引き続き分析を進めているところである。

（英文）

Children and adults with autism spectrum disorder (ASD), attention-deficit hyperactivity disorder (ADHD) and learning disabilities (LD) have been documented well; however, their life course and the relationship between developmental disorders and dementia have not been mentioned. Present study reveals that most of people with dementia have problems of hypersensitivity, but need additional analysis.